

認定情報技術者(個人認証)申請の手引き

CITP コミュニティ

CITP 認定情報技術者
Certified IT Professional

はじめに

認定情報技術者(CITP : Certified IT Professional)は平成 26 年度より情報処理学会が創設したプロフェッショナル IT 人材認証制度である。

CITP 制度の目的は第一に「高度な能力を持つ情報技術者を可視化し、その社会的地位の確立を図ること」である。つまり IT 技術者に対し自発的に技術向上を促すとともに、IT 技術者の能力を客観的に評価する尺度を提供することにある。

IT 分野の技術進歩の速さはこれまでもドッグイヤーと呼ばれてきたが、シリコンバレーがもたらす破壊的なビジネス変化のスピードはさらに速い。このような業界で必要とされるプロフェッショナル IT 人材には、モチベーションが高く、自らアンテナを立て自ら学び常に変化に追随してゆく、“トップガン”が必要となる。

本書は CITP に挑戦し、学び続ける技術エリートの道を歩み始めるための手引きとして、CITP コミュニティがまとめたものである。

CITP コミュニティ 「知」の発信専門部会
2017 年 12 月

第 1 章

IT 技術者の スキル・能力をどのように可視化するの？

人間の能力を可視化しレベルに応じて認証することは一般的には非常に難しい。

幸い、IT 技術者の場合、国際標準に準拠した IT スキル標準（ITSS）が策定されており、これにより可視化するようになっている。その概要を説明する。

1.1 認定の 4 つのポイント

認定情報技術者（CITP）の申請案内には下記のように解説されている。

「CITP とは、IT スキル標準（ITSS）のレベル 4 以上に相当する知識とスキルを保有し、それを業務で発揮していると共に、技術の発展や後進の育成などの社会貢献を行っていると認定を受けた技術者です。

この説明から

- ①知識を保有
- ②スキルを保有
- ③業務で知識・スキルを発揮している（ビジネス貢献）
- ④技術の発展や後進の育成などの社会貢献を行っている（プロフェッショナル貢献）

の 4 つの観点で、レベル 4 以上が必要ということになる。

ではレベル 4 以上とはどういうことか？ 同じく申請案内では、

IT スキル標準のレベル 4 とはプロフェッショナルとしてスキルの専門分野が確立し、自らのスキルを活用することによって、独力で業務上の課題の発見と解決をリードするレベル。社内において、プロフェッショナルとして求められる経験の知識化とその応用（後進育成）に貢献しており、ハイレベルのプレーヤとして認められる。スキル開発においても自らのスキルの研鑽を継続することが求められる（IT スキル標準より）」

となっており、

- ・独力で業務上の課題の発見と解決をリードできる
- ・社内においてプロフェッショナルとして求められる経験の知識化とその応用（後進育成）に貢献
- ・自らのスキルの研鑽を継続している

ことが求められる。

これらをまとめると、CITP の認定には以下の 4 つがポイントになる(図 1)。

①知識

②専門分野のスキル

プロフェッショナルとしてスキルの専門分野が確立している

③ビジネス貢献

プロジェクトの成功の経験と実績などのビジネス成果に対する貢献。独力で業務上の課題の発見と解決をリードできる。

④プロフェッショナル貢献

専門技術の向上による社内外への貢献、後進育成や技術の継承などのプロフェッショナルとしての貢献。自らのスキルの研鑽を継続することができる。

この 4 つのポイントについてその意味と申請書での対応項目を順に解説する。

ITSSのレベル分け			レベルイメージ	評価方法	資格制度
高度IT人材	スーパーハイ	レベル7	国内のハイエンドプレーヤかつ世界で通用するプレーヤ	成果（実績）ベース ↓ 業務経験や面談等 ②、③、④	認定情報技術者制度
		レベル6	国内のハイエンドプレーヤ		
	ハイ	レベル5	企業内のハイエンドプレーヤ		
		レベル4	高度な知識・技能		
ミドル		レベル3	応用的知識・技能	スキル（能力）ベース ↓ 試験の可否	応用情報技術者試験
		レベル2	基本的知識・技能		基本情報技術者試験
エントリ		レベル1	最低限求められる基礎知識		ITパスポート試験

情報処理技術者試験

出典：高度IT人材の育成をめざして（産業構造審議会）一部修正

図1 ITSSと認定情報技術者の関係

1.2 知識

ITSSの知識レベルと情報処理試験は連携しており、レベル4の知識は高度情報処理試験の合格により証明できる。申請職種に必要な高度情報処理試験は図2の通り。

CITP職種	専門分野	情報処理技術者試験(高度試験) ※いずれかに合格していること
ITアーキテクト	アプリケーションアーキテクチャ	システムアーキテクト試験
	インテグレーションアーキテクチャ	ITストラテジスト試験
	インフラストラクチャアーキテクチャ	(旧試験)アプリケーションエンジニア
		(旧試験)システムアナリスト
プロジェクトマネジメント	システム開発	プロジェクトマネージャ試験
	ネットワークサービス	(旧試験)プロジェクトマネージャ
	ソフトウェア製品開発	
	ネットワーク	ネットワークスペシャリスト試験
ITスペシャリスト	データベース	(旧試験)テクニカルエンジニア:ネットワーク
	セキュリティ	データベーススペシャリスト試験
		(旧試験)テクニカルエンジニア:データベース
		情報処理安全確保支援士試験
		情報セキュリティスペシャリスト試験
アプリケーションスペシャリスト	業務システム	(旧試験)テクニカルエンジニア:情報セキュリティ
	業務パッケージ	(旧試験)情報セキュリティアドミニストレータ試験
ソフトウェア開発	システムアーキテクト	システムアーキテクト試験
	アプリケーションエンジニア	(旧試験)アプリケーションエンジニア
カスタマサービス	ハードウェア	システムアーキテクト試験
	ソフトウェア	(旧試験)アプリケーションエンジニア
ITサービスマネジメント	ファシリティマネジメント	ITサービスマネージャ試験
	運用管理	(旧試験)テクニカルエンジニア:システム管理
	システム管理	
	オペレーション	
	サービスデスク	

図2 CITP 職種と申請に必要な情報処理技術者試験・情報処理安全確保支援士試験

1.3 専門分野スキル、ビジネス貢献、プロフェッショナル貢献の表現方法

4つのポイントの内、残りの3つ（②専門分野のスキル、③ビジネス貢献、④プロフェッショナル貢献）はITSSの基準で表現する。ITSSは3部構成となっており、③ビジネス貢献・④プロフェッショナル貢献は2部キャリア編の**達成度指標**として定義されている。また、②専門分野のスキルは3部スキル編の**スキル熟達度**として定義されている(図3)。

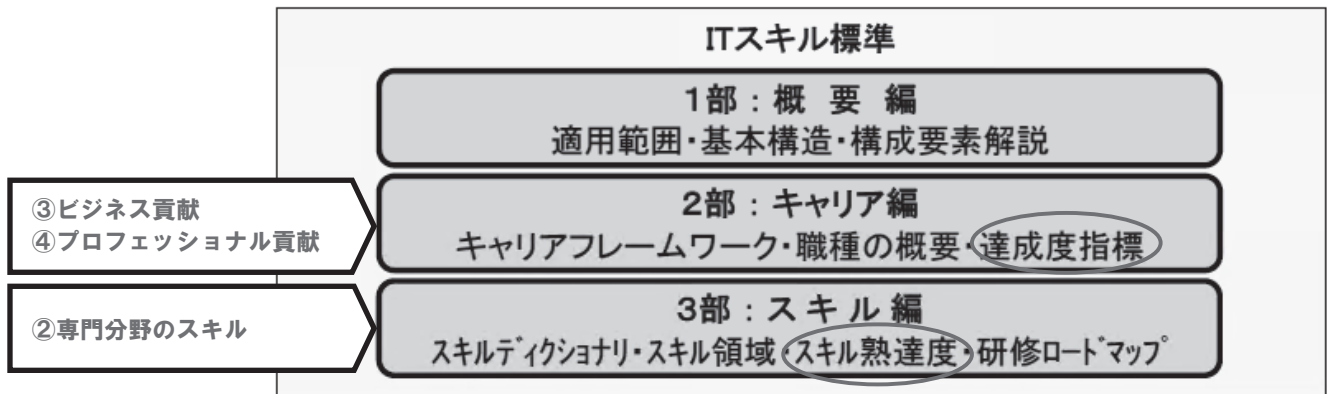


図3 ITSSの構成

申請者は「キャリア⇒達成度指標」と「スキル⇒スキル熟達度」の基準を満たすことが求められる。理解を助けるため、アプリケーションスペシャリスト・レベル4の具体的な基準を図4に示すが、次ページからより詳しく解説する。



キャリア（達成度指標）	スキル（スキル熟達度）
責任：開発チームリーダーとして 実績：至近5年以内のプロジェクトを 2回以上 複雑性：8つの複雑性要件の中から 2項目以上 サイズ：3人以上 を成功裏に達成した経験を有する	開発チームリーダーとして 共通スキル（業務分析、テクノロジー、デザ イン等）および固有スキル（業務システム 構築等） を発揮できる

図4 アプリケーションスペシャリスト（レベル4）の達成度指標とスキル熟達度

1.4 達成度指標とは

(1) ビジネス貢献とプロフェッショナル貢献

達成度指標は、ビジネスを成功させる人材を可視化するために2つの貢献に焦点をあてている。第一はプロジェクトの成功の経験と実績などビジネスに対する貢献を示すビジネス貢献、第二は専門技術の向上による社内外への貢献や後進育成や技術の継承といったプロフェッショナル貢献である(図5)。

この2つの貢献の具体的内容は職種によって異なっており、詳細は「ITスキル標準 V3 2011 2部キャリア編」補足B(ページ17~56)を参照のこと。
以降、アプリケーションスペシャリストを例に説明する。

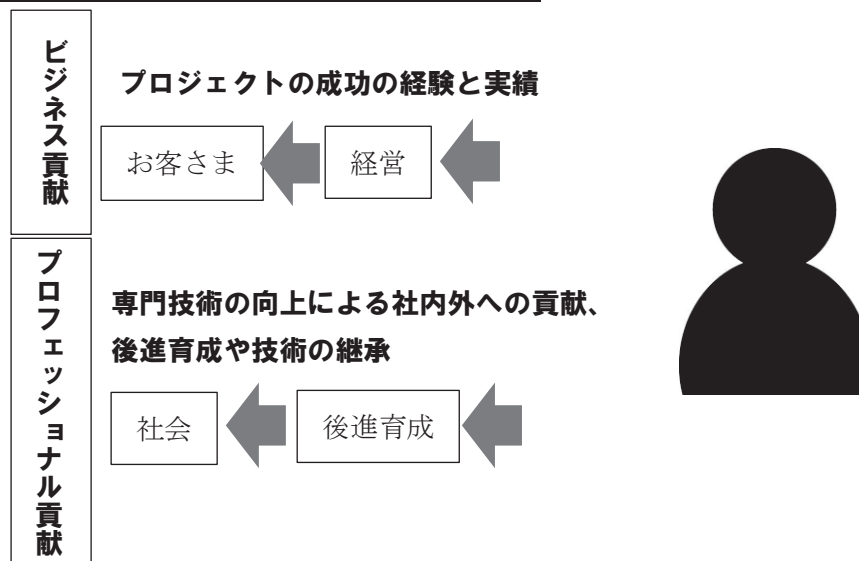


図5 ビジネス貢献とプロフェッショナル貢献

(2) ビジネス貢献の指標

ビジネス貢献は、担当したプロジェクトにおける責任の重さを示す責任性、プロジェクトの難易度を表す複雑性、およびサイズという3つの指標で評価する(図6)。

B. 7 アプリケーションスペシャリスト

ITスキル標準V3 2011 2部:キャリア編_20120326

■達成度指標のレベル記述の違い(ビジネス貢献) 専門分野「業務システム」

レベル	ビジネス貢献						
	責任性				複雑性		サイズ
	活動局面	役割・責任範囲	品質条件	実績回数	複雑性要件	必要条件数	開発チームのピーク時要員数
6	アプリケーションの開発、設計、構築、導入、テスト及び保守における	開発チーム責任者として、開発チームをリードし、業務開発全局面に責任を持つ。	顧客の環境に最適な品質(機能性、回復性、利便性等)を満足するアプリケーションの設計、開発及び導入を	3回以上(内1回以上はレベル6、他はレベル5以上の複雑性、サイズ相当)成功裡に達成した経験と実績を有する。	☐ 複雑な業務要件が多岐に亘り存在し、幾つかの特殊な業務要件が含まれる ☐ 新技術で大手企業で実績のないもの、あるいは事例が見当たらない使用実績の少ないテクノロジーを使用 ☐ 複数のシステム形態が共存(トランザクション処理、クライアントサーバ、Web等) ☐ ミッションクリティカルなシステムであり高品質を要求 ☐ 各業種代表的、業種横断的又は国内有数規模のシステム ☐ クロスプラットフォームでのアプリケーション ☐ 24時間365日の連続稼働が要求され、変更、保守、障害回復に高度な設計が必要 ☐ 限られた期間内で要求される業務形態の変更度合いが大きい	2項目以上	50人以上
5				3回以上(内1回以上はレベル5、他はレベル4以上の複雑性、サイズ相当)成功裡に達成した経験と実績を有する。		4項目以上	10人以上50人未満
4				プロジェクトを2回以上(内1回以上はレベル4、他はレベル3以上の複雑性、サイズ相当)成功裡に達成した経験と実績を有する。		2項目以上	10人以上50人未満
3	アプリケーションの開発、設計、構築、導入、テスト及び保守において、	既存の作業標準やガイドランスに従い、開発チームメンバーとして、	担当する成果物の実施責任を持ち、	プロジェクトに1回以上(レベル3の複雑性、サイズ相当)参画した経験を有する。		4項目以上	3人以上
						2項目以上	特定せず

図6 ビジネス貢献の3つの指標(アプリケーションスペシャリスト)

・責任性

プロジェクト全体の責任者として、あるいはサブプロジェクトの責任者として、もしくはメンバとして対応したかによって責任の重さが違う。その対応すべき立場の責任性をレベルごとに設定している(図7)。

レベル4はチームのリーダとしてプロジェクトを2回以上成功させた実績が必要。

(内1回以上はレベル4、他はレベル3以上の複雑性、サイズ相当)

・複雑性

プロジェクトの難易度を表す要素である。新規性、ミッションクリティカル性、国際的認知性等8つの項目を定義しており、レベルごとに必要な複雑性の数を設定している。

レベル4は2項目以上となっている。

・サイズ

プロジェクトの規模を表す要素である。プロジェクト規模(例:必要とする要員の数が10人か50人か100人か?)、あるいはビジネス規模(例:必要とされる予算金額が1億円か、10億円か、50億円か?)をレベルごとに明示している。

レベル4は3人以上となっている。

(3) プロフェッショナル貢献の指標

プロフェッショナル貢献は、技術者の保有する専門性(専門分野別主要テーマ)、貢献度合い、技術継承実績(技術の継承に関する実績度)、後進の育成の4つの指標で評価する(図7)。

■達成度指標のレベル記述の違い(プロフェッショナル貢献)

ITスキル標準V3 2011 2部:キャリア編_20120326

レベル	プロフェッショナル貢献				
	専門分野別主要テーマ		貢献度合い	技術の継承に対する実績度	
	業務システム	業務パッケージ		活動分野	必要条件数
6	□アプリケーション開発領域における技術要素(ツール、標準、メソッド等) □アプリケーション部分のコスト、スケジュール、リスクのアセスメント	□業務パッケージを活用した適用導入および関連するアプリケーション開発領域における技術要素(ツール、標準、メソッド等) □業務パッケージを活用した適用導入および関連するアプリケーション部分のコスト、スケジュール、リスクのアセスメント	他を指導することができる高度な専門性を保有し、業界に貢献している。	□学会、委員会等プロフェッショナルコミュニティ活動 □著書 □社外論文掲載 □社内論文掲載	4項目以上
5	□アプリケーション部分のコスト、スケジュール、リスクの管理	□業務パッケージを活用した適用導入および関連するアプリケーション部分のコスト、スケジュール、リスクの管理	他を指導することができる高度な専門性を保有し、社内に貢献している。	□社外講師 □社内講師 □特許出願	3項目以上
4	□アプリケーション部分のコスト、スケジュール、リスクの管理	□業務パッケージを活用した適用導入および関連するアプリケーション部分のコスト、スケジュール、リスクの管理	高度な専門性を保有し、後進を指導している。		1項目以上
3	□アプリケーションの設計、開発、導入	□業務パッケージを活用した適用導入および関連するアプリケーションの設計、開発、導入、カスタマイズ	専門性を保有し、独力で実践している。	—	—

図7 プロフェッショナル貢献の4つの指標(アプリケーションスペシャリスト)

・専門性(専門分野別主要テーマ)

各専門分野ごとの主要テーマを例示し、それらの専門性の影響度合をレベルごとに定

義している。主要テーマは職種によって異なるため、「IT スキル標準 V3 2011 2 部キャリア編」補足 B（ページ 17～56）を参照のこと。

・貢献度合い

レベル 6 は業界に貢献、レベル 5 は社内に貢献、そしてレベル 4 は「高度な専門性を有し、後進を指導している」ことが求められる。

・技術継承実績

下記 7 つの活動分野（全職種共通）の内、レベルごとに必要条件数を明示している。
レベル 4 の場合少なくとも一つの項目が必要である。

- ☐学会, 委員会等プロフェッショナルコミュニティ活動 ☐著書
☐社外論文掲載 ☐社内論文掲載 ☐社外講師 ☐社内講師 ☐特許出願

・後進の育成

レベル 4 は「後進の育成（メンタリング、コーチング等）を必須としている。

1.5 スキル熟達度とは

『専門分野のスキル』を表現する指標が「スキル項目」、「スキル熟達度」である（図 9）。

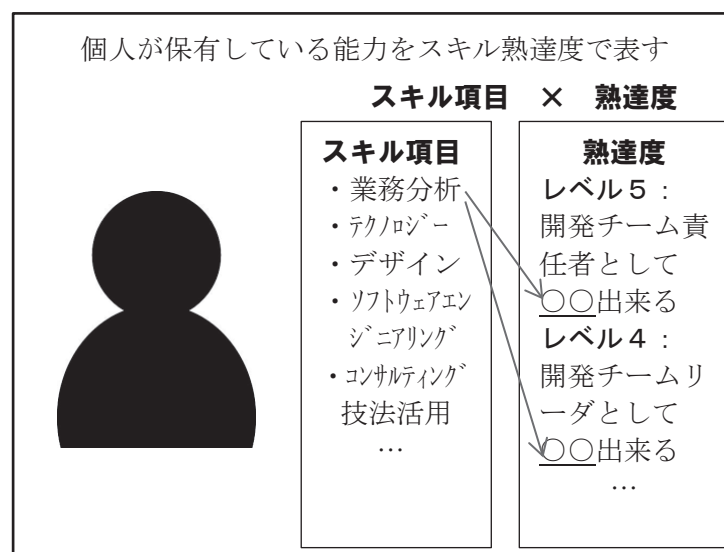


図 9 スキル項目とスキル熟達度

(1) スキル項目

「スキル項目」は、技術者が持つ専門分野のスキルを定義したもので、職種共通スキル項目と専門分野固有スキル項目がある（表 10）。

表 10 ITSS で定義されているスキル項目（アプリケーションスペシャリスト）

共通スキル項目	スキル熟達度に関する自己申告
業務分析	開発／適用のチームリーダーとして、業務要件、技術要件分析を行うことができる。
テクノロジー	開発／適用のチームリーダーとして、複雑性の高い技術的問題解決を実践するとともに全開発局面を遂行することができる。※複雑性の高い技術的問題を具体的に明記すること
デザイン	開発／適用のチームリーダーとして、開発環境要件、データベース要件を満たすアプリケーションデザインを実施することができる。
ソフトウェアエンジニアリング	開発／適用のチームリーダーとして、最適開発手法、開発支援ツール、テスト技法等のソフトウェアエンジニアリング技術に関して経験の浅いメンバに対してアドバイスを与え、システム開発を遂行することができる。
コンサルティング技法の活用	開発／適用のチームリーダーとして、コンサルティング技法を適用し、プロジェクトを実施することができる。
知的資産管理活用	開発／適用のチームリーダーとして、知的資産のデータベース化、活用、維持、管理を行い、プロジェクトを効率的、高品質に実施することができる。
プロジェクトマネジメント	開発／適用のチームリーダーとして、プロジェクトマネジメント職種と協業し、プロジェクト計画策定と実施、変更管理等のプロジェクトマネジメントを遂行できる。
リーダーシップ	開発／適用のチームリーダーとして、指揮、命令しプロジェクトを遂行することができる。
コミュニケーション	開発／適用のチームリーダーとして、プロジェクトメンバとのチームコミュニケーションを図りプロジェクトを遂行することができる。
ネゴシエーション	開発／適用のチームリーダーとして、プロジェクトチームメンバと技術的課題に関する合意を形成できる。
専門分野固有スキル:業務システム	
業務システム構築	開発のチームリーダーとして、プロジェクトを遂行することができる。

(2) スキル熟達度

スキル熟達度は技術者が各スキル項目をどのレベルで保有しているかを表現するもので、「～することができる」という能力表現で定義している。熟達度は役割とレベルが対応しており、レベル 4 はリーダーとしてそのスキルを発揮できること求められる(表 11、12)。

表 11 スキル熟達度のレベルと役割

レベル	責任
レベル 7～5	責任者として
レベル 4	リーダーとして
レベル 3～1	メンバとして

表 12 レベル 4 のキャリア（達成度指標）（アプリケーションスペシャリスト）

スキル項目と知識項目	スキル熟達度	
【職種共通スキル項目】 ●業務分析 【知識項目】 ー業務要件分析 ー技術要件分析 ーインダストリ知識 ーシステム化戦略策定 ープラットフォーム要件定義 ーシステム価値の検証 ー情報化と経営 ー汎用業務内容 ー汎用業務最新動向	レベル 7	
	レベル 6	ピーク時の要員数 50 人以上のアプリケーション開発プロジェクトにおいて、開発チーム責任者として、経営戦略・システム化戦略との整合性を保ち、業界や技術動向の先見的見地に基つき複雑高度な業務要件、技術要件分析を行うことができる。
	レベル 5	ピーク時の要員数 10 人以上 50 人未満のアプリケーション開発プロジェクトにおいて、開発チーム責任者として、業務要件、技術要件分析を行うことができる。
	レベル 4	ピーク時の要員数 3 人以上のアプリケーション開発プロジェクトにて、開発チームリーダーとして、業務要件、技術要件分析を行うことができる。
	レベル 3	アプリケーション開発プロジェクトの開発チームメンバとして、担当する領域における業務要件、技術要件分析を行うことができる。

第 2 章

申請書の書き方のポイントは？

申請には多くの書類を作成しなければならない。筆者も経験したが、優先順位を付けないと途中でエネルギーを使い果たしてしまう。的確かつ効率的な書き方の例を紹介する。

2.1 提出書類の概要と作成順

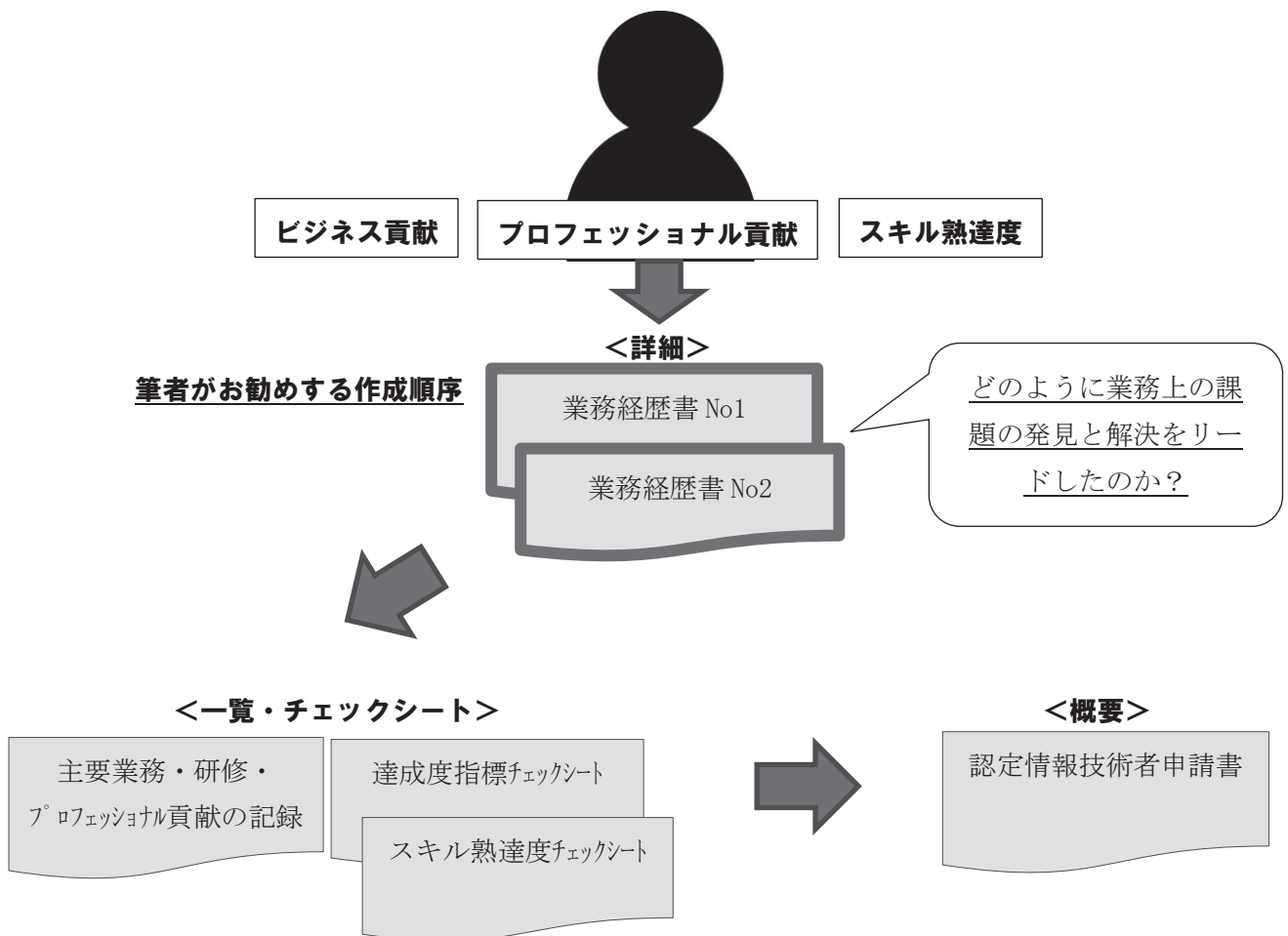
作成する提出書類は下記の 5 種類がある。

- a. 認定情報技術者申請書
- b. 主要業務・研修・プロフェッショナル貢献の記録
- c. 業務経歴書 No1, No2
- d. 達成度指標チェックシート
- e. スキル熟達度チェックシート

このうち最も重要なのが『c. 業務経歴書』である。採点者はこれに書かれている具体的な内容で申請者のスキル・能力を判断する（と思われる）。

また、『a. 認定情報技術者申請書』は概要をまとめたもの、『b. 主要業務・研修・プロフェッショナル貢献の記録』、『d. 達成度指標チェックシート』、『e. スキル熟達度チェックシート』の 3 つは一覧によるチェック用である。

したがって『c. 業務経歴書 No1, No2』に最もエネルギーを使い、これが完成したら概要編やチェックシート系を作成するのが良い。次ページから書き方のポイントを解説する。



2.2. 業務経歴書

採点者に如何に申請者の実力を分かり易く伝えるかがポイントである。採点者への印象を高めるために、以下の項目に留意して記載してほしい。

なお、実績は自身で評価が高いものから順に 2 件だけを選んで記載するとよい。

○一般的な内容ではなく、実際に実施した内容を具体的に記載する

○高度情報処理試験に出てくる専門用語を出来るだけ使う

○『独力で業務上の課題の発見と解決をリードできる』ことを示す

- ・どのような課題を、誰が、どう解決し、どのような結果・評価を得たか
- ・チームリーダーとしてのスキルを発揮したか

○後進育成への貢献

以下に合格例を紹介する。

(1) 一般的な内容ではなく、実際に実施した内容を具体的に記載する

申請者が活用した技術やその背景を具体的に記載することにより採点者がイメージしやすくなる。

【ITS(NW)職種の合格例】

プロジェクト要件	・新拠点に構築済みのリバースプロキシが存在し、将来的に社外公開サーバはそちらへ移行することが決まっている為、…新拠点のリバースプロキシを経由する経路へ変更する方式で移行作業を行う。 ・社外公開サーバが接続している LAN セグメントを、新拠点まで L2 延伸することで…。 ・新拠点のリバースプロキシはファームウェアのバージョンが異なることから…を移行作業日までに実施する。
----------	---

(2) 高度情報処理試験に出てくる専門用語を出来るだけ使う

CITP には高度情報処理試験の合格が前提となっているが、それぞれの職種に対応する知識ドメインの用語を適切に使うことで所有する知識とその理解度をアピールできる。

【PM 職種の合格例】

業務概要	活用した専門技術	・PMBOK のプロジェクトマネジメント・プロセス全般を活用しているが、特に高度な対応を必要とした技術は以下 WBS 作成、アクティビティ資源・所要時間見積り、コスト見積り、スケジュールコントロール
------	----------	---

自らのスキルを 発揮した課題と解決	【解決・結果】 私はプロジェクトマネージャとして、漏れのない移行を行うため、以下事項を特に重視し作業を進めた。 • 作成した WBS をアクティビティに要素分解する際、……を実施し、作業項目漏れのないことを確認した。 • 若手メンバをアクティビティ定義の作業に参加させることにより、……という教育的効果もあった。 • アクティビティ順序設定、所要期間見積りをベースに、クリティカル・チェーン法により所要期間バッファの追加を考慮して移行対象ごとの移行準備スケジュールを作成しコントロールすることで、……、クラッシングや、ファスト・トラッキングを行う必要なく順調に進捗した。
----------------------	---

(3) 『独力で業務上の課題の発見と解決をリードできる』ことを示す

・どのような課題を、誰が、どう解決し、どのような結果・評価を得たか

『どのような課題』は『業務概要・複雑性要件』欄の中で該当項目を□から■に変え、そのあとに具体的内容を記述する。2 件以上必要。

『誰が』は例えば『申請者自ら』というように、自らが解決をリードしたことをアピールする。

『どのような結果・評価』は『自らのスキルを発揮した課題と解決』欄に、『業務概要・複雑性要件』欄の該当項目を再掲するとともに、【課題】と【解決・結果】を整理して記載する。

【ITS (SC) 職種の合格例】

業務概要	複雑性要件 ■複雑、高度なアクセスコントロール要求 【保守者・管理者のアクセスコントロール】 機密情報を取り扱うため保守者・管理者に対して厳密なアクセス制限が求められる。
------	---

項目を一致させる

自らのスキルを 発揮した課題と解決	■複雑、高度なアクセスコントロール要求 【保守者・管理者のアクセスコントロール】 【課題】 • 1)機密情報を扱うため保守者アカウントは厳密に管理し、万一の事故に備え作業履歴を残す必要があった • 2)各社の管理者は自社の情報にしかアクセスできないようにし、権限の付与は各社が管理できるようにする必要があった 【解決・結果】 • 課題 1 については申請者自ら以下のようなポリシーを制定し、運用設計に盛り込んだ。 • 1-1)…… • 1-2)…… • 1-3)…… • 課題 2 については申請者が要件定義の段階でアクターを整理しユースケース設計を実施した。その結果、……を用意することで課題を解決した。……
----------------------	---

・ チームリーダーとしてのスキルを発揮したか

レベル 4 はリーダーとしてそのスキルを発揮できること求められるため、役割を明確に記述する。PM や責任者でもさらに上のレベルとなるので OK（スキル熟達度参照）。

【PM 職種の合格例】

自らのスキルを発揮した課題と解決	※どのような課題を、誰が、どう解決し、どのような結果・評価を得たかに加えて、レベル 4 の実績ではチームリーダーとしてのスキルを発揮したことが明確になるよう記述して下さい。 • 当プロジェクトは短納期であり、かつ、顧客担当者が十分な打ち合わせ時間を確保する事が困難であるという課題があった。そのため、私は PM としてプロトタイプモデルを採用する事とした。なぜならば、・・・、短納期にも対応可能と考えたからである。 • 設計工程以降に仕様変更が発生する事が確定的であるが、変更内容が決まらず納期直前に変更を依頼される可能性があるという課題があった。私はマスタスケジュール作成時に、考えられる仕様変更毎に変更にかかる日数を設定し納期と品質を守る事を前提とした仕様変更可能最終日を設定した。その日付を顧客に説明し合意したことで、・・・。
-------------------------	--

(4) 後進育成への貢献

CITP はプロフェッショナル貢献として「高度な専門性を有し、後進を指導している」ことが求められているため、『後進育成への貢献』欄は必須である。

なお、8 ページ図 7 に規定されている技術継承実績では一つ以上が求められるが、『後進育成への貢献』欄は「社内講師」に該当する。そのため『主要業務・研修・資格・プロフェッショナル貢献の記録』申請書の＜後進の育成＞欄には本欄に記載した以外の活動を記載するが、なければ空白でもよい。

【ITS (SC) 職種の合格例】

後進育成への貢献	- プロジェクトメンバー(入社 3 年目)をスマートフォンアプリ開発の主担当として、委託先の管理全般を任かせた。積極的に情報を吸い上げ、プロジェクト完了時にはスマートフォンアプリ開発の第一人者と呼べるまでに成長した。…技術面についても、APS のレベル 3 まで成長できたと評価する。 - また、もう一人のプロジェクトメンバー(入社 4 年目)をバックエンド開発の主担当にすえ、前述した通りテストケースの洗い出しを実施させた。…彼も今回のプロジェクトを通じて APS のレベル 3 まで成長できたと評価する。
----------	---

【ITS (NW) 職種の合格例】

後進育成への貢献	本プロジェクトでは少人数のチームであったため、メンバは一人何役もこなす必要があった。担当メンバは…業務分野の専門家としてチームに加わったが、改修における要件定義、設計のフェーズではネットワークやセキュリティについてもディスカッションを重ねて知見を共有し、構築についても web アプリ部分のコーディングを行ってもらうことで経験を蓄積し、ITS(ネットワーク)レベル3相当の能力を身につけた。現在は運用保守におけるトラブル発生時に、申請者に代わってどちらでも対応できる体制を取っている。
----------	--

2.3 認定情報技術者申請書

認定情報技術者申請書は、『業務経歴書』などで記載した適格性をまとめたものである。実績 No1, No2 を記載してから記述すると記載し易い。

(1) 申請理由

申請理由はレベル 4 に該当することを示すためにビジネス貢献およびプロフェッショナル貢献の要約を 4～5 百字内で簡潔に記述することが求められている。

【PM 職種の合格例】

申請理由	…のシステム開発を過去5年間に2件経験し、どちらもプロジェクトマネージャとしてメンバーを率いて、…プロジェクトを完遂した。また、開発時以外でも保守チームのチームリーダーとしてマネジメントに従事し、不具合対応や改修作業を滞りなく実施している。 業務経歴書の実績 No.1 に関しては、開発のプロジェクトマネージャとして、<u>短納期かつ仕様変更の可能性が高いプロジェクトを納期通りに完成させた</u>。実績 No.2 では、…のプロジェクトマネージャとして、<u>処理時間に課題を抱えたシステムを無事想定時間内に収め完成させた</u>。 実績 No.1 では若手を中心にプロジェクトを実施し、自信を付けさせると同時に技術力の向上にも貢献したほか、社外のPMコンテストにPMとして参加し、プロジェクトマネジメント部門で優勝した。 以上のビジネス貢献、プロフェッショナル貢献によりレベル4のプロジェクトマネジメントの条件を満たしていると考え認定を申請する。
------	---

上記例では、アンダーライン部にビジネス貢献として PM の達成度指標を簡潔に記している（スキル項目・熟達度は詳細にわたるため省略している）。また、部部にプロフェッショナル貢献として後進の育成と社外コミュニティ活動が記されている。

下記例は 5 百文字を超えるが貢献項目毎にまとめた合格例である

【PM 職種の合格例】

申請理由	【ビジネス貢献】 • <u>責任性</u> … • <u>複雑性</u> … • <u>サイズ</u> … 【プロフェッショナル貢献】 • <u>専門性</u> … • <u>技術の継承</u> … • <u>後進の育成</u> … これらのビジネス貢献、プロフェッショナル貢献から、IT スキル標準レベル 4 のプロジェクトマネジメントの条件を満たしていると考え、認定を申請する。
------	--

(2) 得意分野

申請者の得意分野としてスキル熟達度チェックシートに記載した内容の要約を含めて、2～3 百字程度に具体的かつ簡潔に記載する必要がある。そのためこれも先にスキル熟達度チェックシートを完成させ、その要約を記載するようにするとよい。

【PM 職種の合格例】

得意分野	入社以来、大手会社向けのミッションクリティカルな基幹系システムの構築・開発に携わっており、オープン系のシステム構築・開発を得意分野としている。特に・・・に精通している。また、システム開発だけでなく、顧客企業に求められる競争力強化に必要なコストダウン施策や新規システムの企画・提案も行っている。 新技術の情報収集を重ね、システム刷新の際にコスト削減だけでなく、運用、将来性、システムライフサイクルなどの観点も踏まえソリューション提案を実践しており、最新の技術動向、業界動向にも長けている。
------	---

2.4 主要業務・研修・プロフェッショナル貢献の記録

記入要領・記入例をみて記載する。

＜著作・論文＞、＜講演・講師＞、＜特許出願＞、＜学会・コミュニティ活動＞の4つについては、少なくとも一つ書くのが望ましい。どれもハードルが高そうに見えるが、業務経歴書で述べた後進育成への貢献は「社内講師」に該当するため、＜講演・講師＞でそれを記載するとよい。

また、＜後進の育成＞欄には業務経歴書で述べた『後進育成への貢献』欄に記載した以外の活動を記載する。それがなければ空白でもよい。

【ITS(SC)職種の社内講師事例】

発表年月	講演タイトル名	主催・イベント名	具体的内容	社内/外区分
yyyy 年 m 月 ～ 継続中	 開催毎にホットな話題を取り上げる。	(自らが主催) 社内セキュリティ勉強会	年に数回程度、セキュリティピックスに関する社内勉強会を主催。 <u>発表者を有志で募るが、自らも、毎回発表</u>している。 参加者は XX 人～X 人。 	社内

2.5 達成度指標チェックシート

達成度指標チェックシートは詳細に記述した 2 件の業務経歴書について、ビジネス貢献、プロフェッショナル貢献をクリアしているかをマーク方式でチェックするもの。

ビジネス貢献（責任性・複雑性・サイズ）、プロフェッショナル貢献（専門性・技術の継承・後進の育成）の計 6 項目について、業務経歴書を読み直しながらチェックするとよい。

2.6 スキル熟達度チェックシート

スキル熟達度チェックシートは全項目について、具体的に記載する必要がある。この書類になってくるとかなり疲れが溜まってくると思うが、全項目について手を抜かずしっかり記載してほしい。

第3章 合格者からのアドバイス

【計画的に準備する】

・請書に記入する内容が多いため、作成に時間がかかることと、資格の合格証書や研修の受講記録など用意する資料が多く、探すのに手間取って、時間をかけて準備を進める必要がありましたので、締め切りまでの時間に余裕を持って準備をする必要があると思います。

(ITS F 氏)

・申請書の作成には非常に時間がかかったため、シナリオ作成から素案作成、本書作成、校正、他者チェックなど、計画的に進めていく必要があった。(PM M 氏)

・書き始めてみて思った以上に時間がかかるとわかったこと。(複雑性要件の項目が固定のため、それに当てはまる事例を考え、さらに自身の実績がアピールできるようまとめる点に時間がかかりました)、あとは締切日が IPA 試験の翌日だったためです。言葉にするとするまでもないことですが、計画的に執筆にとりかかることをアドバイスしたいです。

(ITS M 氏)

【IT スキル標準を熟読する】

・業務経歴書、チェックリストを作成する前に、「IT スキル標準」を熟読し、自分が申請する業種に求められているスキルレベルを理解することが大切だと思います。私はこれをしっかり行わない状態で、業務経歴書、チェックリストの記載を始めてしまったので、一通り記載した後に、大量の修正を行うことになりました。(ITS T 氏)

・社内標準での表現ではなく、「IT スキル標準」の用語で表現する事を意識しました。一旦、文章を作成した上で、使用した用語が「IT スキル標準」で定められているか、意味が同じであるかという点を意識して加筆修正を行いました。(ITA O 氏)

【社外活動への取り組み】

・IT スキルを客観的に評価できる社外論文やフォーラム講演などは、エビデンス含め提出することができるため、合格に有利に働くと思います。申請者(予定者含む)は、特に意識した社外活動の取り組みが必要と考えます (PM S 氏)

・プロフェッショナル貢献の記載内容に書けることが少なく、記載内容も妥当であるか不安でした。また、具体的な活動のエビデンスを求められるので、計画的に記録を残していないと難しいと感じました (ITS M 氏)

【職種を意識する】

・職種を意識するようにしました。私は、セキュリティで申請しましたが、つついアプリケーションスペシャリスト寄りになってしまいました。

- ・役割＝リーダーを意識しました。「〇〇した」だと、担当者になってしまうので、「〇〇するよう指示した」や「〇〇に気を付けるよう指導した」のような表現を用いました。(ITS K 氏)

- ・求められるものが職種によって違うということです。私は ITS(SC)ですが、求められるのはあくまで「技術」なのだと面接で強く感じました。日常業務でプロジェクトマネージャーを行っている、どうしてもマネジメントの実績をアピールしがちだと思うので、職種で求められるスキルを意識して執筆することが大事だと思いました。(ITS M 氏)

【記入方法の注意書き/サンプルの熟読】

- ・記入方法の注意書きやサンプルを熟読し、要求されている記載方法を順守するようにしました。形式不備で不合格になってしまうのはとても残念なので。例えば、「2.6 スキル熟達度チェックシート」では、スキル項目ごとに、実績 1 か実績 2 かを明記し、とあるので、以下のように記述をしました。

「実績 1 では、〇〇をした。実績 2 では、〇〇をした。」(ITS K 氏)

執筆者・ノウハウ提供者

【本篇担当】

中電シーティーアイ 取締役人財開発センター長 松田信之 (ITA)

住友電工情報システム株式会社 岡崎四郎 (ITA)

【申請書ノウハウ提供】

中電シーティーアイ インフラユニット 基盤システム部 ITデバイスG GL 茶野木 孝宏(PM)

同 インフラユニット プラットフォームセンター ストレージG ストレージT 主査 宮下 修(PM)

同 ビジネスユニット エネルギーシステム部 ITシステムG 火力T TL 石黒 俊幸(PM)

同 インフラユニット 基盤システム部 インフラコンサルティングG GL 池田 佳裕(ITS(NW))

同 電力MSユニット 解析エンジニアリング部 流体G 解析T 専門係長 藤木 一雄(ITS(NW))

同 インフラユニット プラットフォームセンター ネットワークG 専門係長 豊田 太司(ITS(NW))

同 インフラユニット インフラ・セキュリティサービス部 情報基盤Gお客さまサポートT主査 水野 剛(ITS(SC))

同 インフラユニット インフラ・セキュリティサービス部 セキュリティ基盤G SOTC TL 中田 圭亮(ITS(SC))

同 ビジネスユニット ビジネスシステム部 インターネットサービスGサービス開発T TL 久保 壮一郎(ITS(SC))

同 インフラユニット インフラ・セキュリティサービス部 情報基盤Gお客さまサポートT 専門係長 宮部 麻里子
(ITS (SC))

注) GL:グループリーダー TL:チームリーダー